

## 平成 16 年度パッチ網並行操業試験結果と チリメン評価項目について

海洋資源担当 守岡 佐保

Key word ; 網目, 網目拡大, カタクチイワシ, シラス, 並行操業, パッチ網, 和田島漁協

今回は, 平成 16 年 10 月 17 日に実施したパッチ網並行操業試験の結果について報告するとともに, シラス干しを扱う流通業者の方が, どのような項目を重視してシラス干しを評価されているか御紹介します。

漁獲に適した網目の大きさは?

徳島県のパッチ網業界では, 和田島漁協を中心に袋網の網目拡大の取り組みが行われています。そこで, 徳島県では網目拡大の効果の把握・検証のため, 4 種類の異なる大きさの網目で, 同じ海域で同時間曳網し, 漁獲量と漁獲物の内容を調べました。

カタクチイワシ漁獲重量については, 図 1 のグラフで示すように, 2 回とも網目の一番小さい 260 経が一番低いという結果になりました。カタクチイワシ重量組成については, 1 回目はどの網も約 9 割で, 網による差が少なく, 2 回目は, 260 経が他の 3 種に比べ 2-3 割低い 55%という結果になりました。

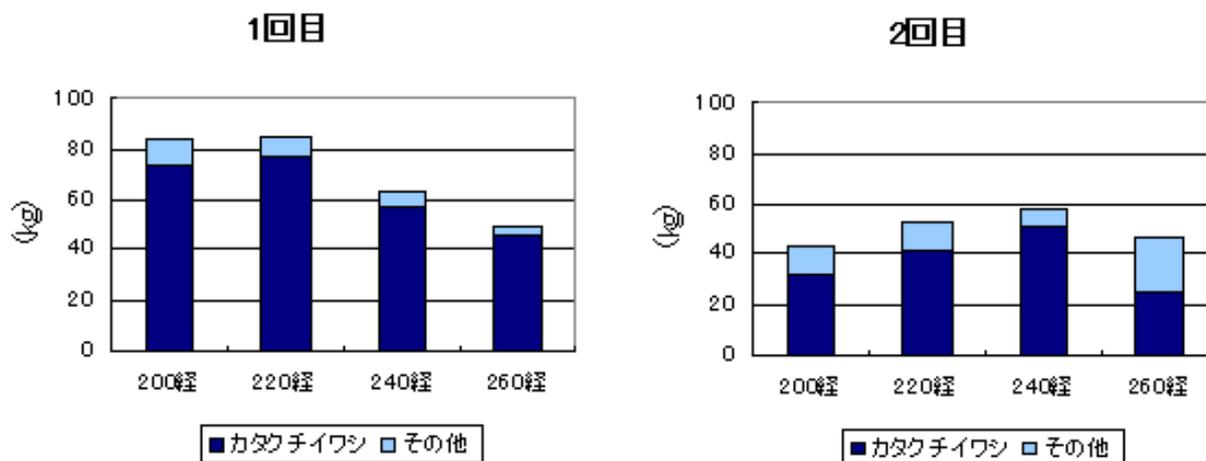


図 1 全漁獲量及びカタクチイワシ漁獲量

図 2 では, 漁獲されたカタクチイワシの全長ヒストグラムを示しています。ヒストグラムの形状は, 最上段の 200 経では山形で, 下段に行くほど帯状に広がっています。これは, 網目が小さいほど漁獲サイズのばらつきが大きいことを表しています。また, 平均値については, 200 経が大きく, 他の 3 種類はあまり差がありませんでした。

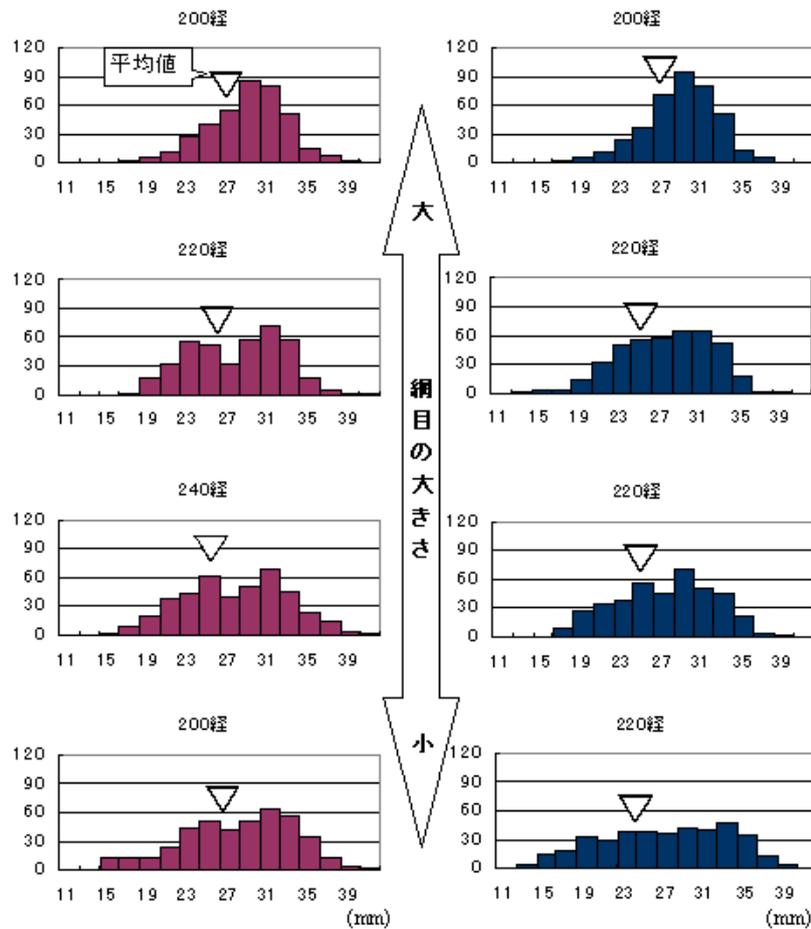


図2 カタクチイワシの全長ヒストグラム

今回の調査では、漁獲量の面では、260 経が一番少なく、漁獲物の内容については、網目が大きいほど漁獲物のサイズが揃うという結果になりました。

加工後のシラス干しの評価は？

1 回目の漁獲物は、半干し(釜揚げ後、15 分間機械乾燥した状態)に、2 回目については釜揚げに加工し、写真1及び2のようになりました。比べてみると、260 経は混じりが多くサイズが不揃いであるのが分かります。特に 2 回目の 260 経は甲殻類の混じりが多いため、全体が赤く見えます。



写真1 1回目の漁獲物(加工方法:半干し)



写真2 2回目の漁獲物(加工方法:釜揚げ)

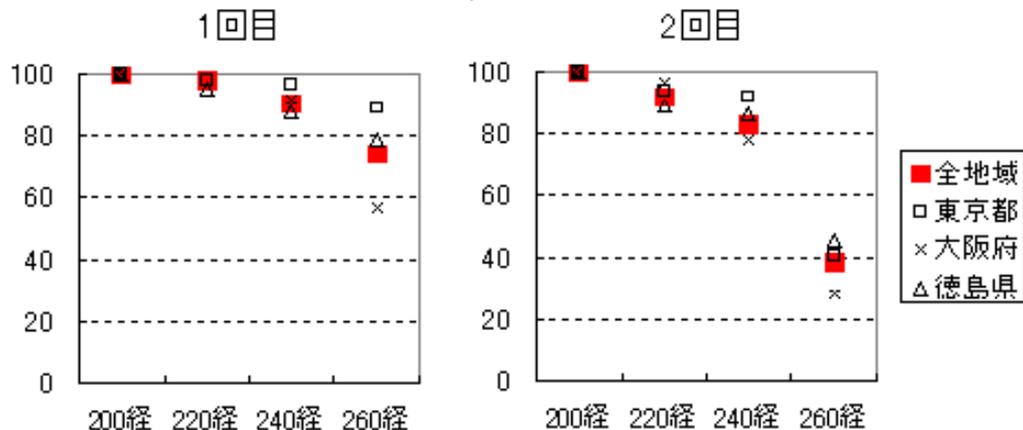
これらのシラス干しの評価に違いがあるか調査するため、流通業者の方々の協力を得てアンケートを行いました。消費地である東京、大阪及び徳島県内合計 25 名(表 1 参照)に網目、回次毎のシラス干しサンプルとアンケート用紙を配布し、どのサンプルがどの網目で漁獲されたかを伏せて回答していただきました。

表 1 アンケート調査の内訳

地域	回答期間	回答者数	回答者内訳
東京都	2004年10月20日	6	卸売 6
大阪府	2004年12月2日	7	卸売 3, 中卸 4
徳島県	2004年10月中-下旬	10	産地仲買 5, 漁協 2, 卸売 1, 中卸 1, 量販店 1
匿名	2004年10月下旬	2	
合計		25	

アンケートの設問1「サンプルに入札価格を付けてください。」の結果を、図3に示しています。回答者の価格基準日が統一されていないため、それぞれ 200 経の価格を 100 として比較しました。これを見ると、1 回目、2 回目とも 260 経が一番低く、特に 2 回目の 260 経は 200 経の約 4 割と低い評価を受けています。

設問 1 サンプルに入札価格を付けてください。(操業試験実施日又は記入日の市況を基準とする。)



※回答時期が異なるため、各回200経の価格を100とした。

図 3 網目別サンプル相対評価

次に、図 4 のサンプルの 3 段階評価結果を見ると、網目が大きいほど「良い」が多く、「悪い」が少ないという傾向が見られました。また、設問 1 で低い評価を受けた 2 回目の 260 経については、未回答を除く全員の回答者が「悪い」と評価し、そのうち 6 割が、「混じりが多い」という感想を書いていた。

設問2 サンプルを3段階で評価してください。

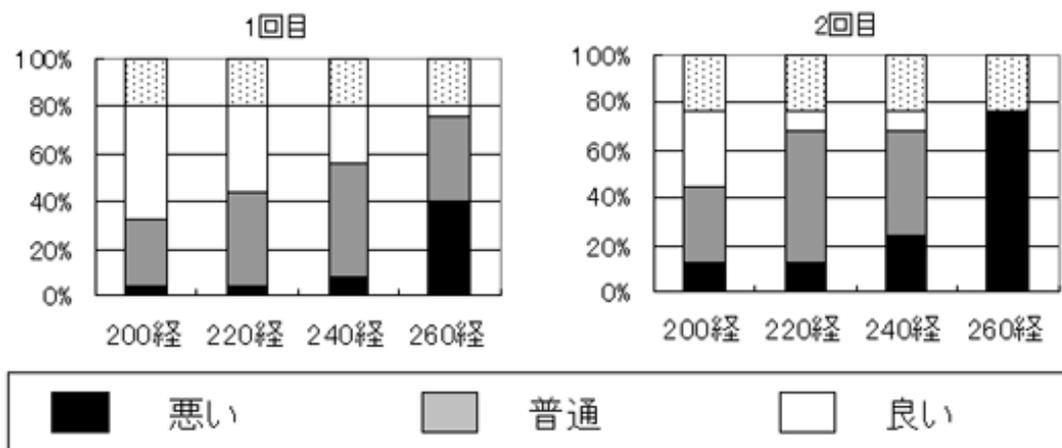


図4 網目別サンプル3段階評価

シラス干しを評価する上で重視する点は？

設問3では、シラス評価において重視する点をお聞きしました。図5のグラフから、「色」「大きさ」「混じりもの」についてほぼ同じくらい重視され、ブランドについてはあまり重視されていないことが分かりました。

設問3 シラス評価において重視する点を次から選んでください。(複数回答)  
 選択肢:「色」「大きさ」「混じりもの」「ブランド」「その他」

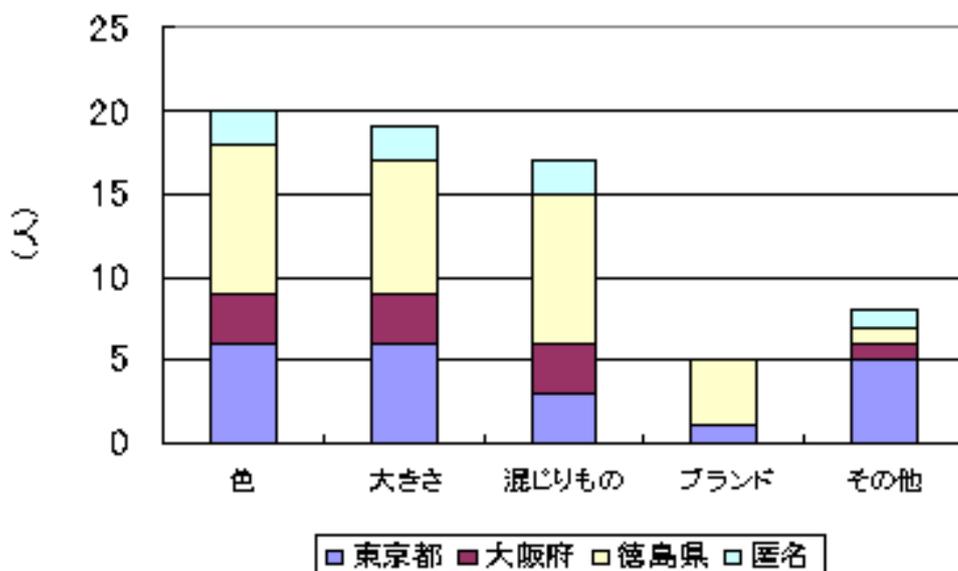


図5 シラス評価における重視項目

具体的には、「色」については、「白いものがよい」が最も多く、次に「白、又は青いもの」が続きました。

「大きさ」については、「小」「中小」「揃っているもの」という意見に分かれました。「小(S)」サイズを評価する意見は東京の回答者に多く、「東京では小筋なものが好まれる」といった補足説明もありました。しかし、サイズについては「バイヤーによって好みが違う」や「徳島県では中筋を好む」な

どという意見も見られ、地域の嗜好の影響が大きいという印象を受けました。また、「小」や「中小」といった好む大きさではなく、「揃っているものがよい」という意見が目立ち、これには「細くても太くても揃っていればよい」や「揃っているほどよい」という補足説明がありました。

次に「混じりもの」については、「無い方がよい」という意見がほとんどで、「ゴミには注意してほしい」「(混じりが多いと)加工、パック段階で大変な手間・コストがかかる」といった具体的な意見も見られました。

「ブランド」については、5名の回答者のうち消費地からは1名のみで、その回答者から「産地による差は大きくない。品物を評価されている荷主も一部にはある。」という補足説明がありました。消費地では、産地のネームバリューよりも、品質が重視されている様子が見えます。

設問3の結果をふまえて、今回の並行操業試験サンプル評価を振り返ると、魚体サイズが4種の中で一番揃っている200経が2回とも評価が高く、カタクチワシ重量組成が一番低い2回目の260経がもっとも低い評価を受けたことが分かります。

今回の並行操業試験の総合評価は？

最後に、並行操業試験の網目別仮定売上金額を紹介します。この金額は、アンケート設問1の評価金額に製品重量をかけたものです。製品重量とは、乾燥後、混雑物を除去し、箱詰めする前のもので、混じりものが多いほど、全漁獲量に対する製品重量の歩留まりは低くなります。

この仮定売上金額から、今回の調査に関する網目毎の漁獲量、漁獲量の組成及び品質に関する総合評価について検討したいと思います。

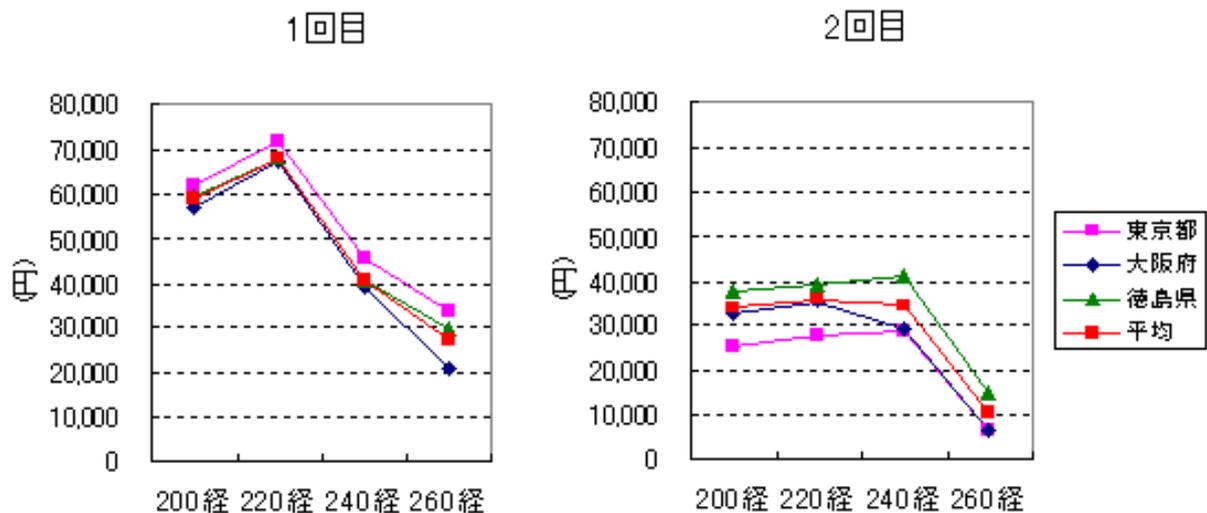


図6 網目別仮定売上金額

□ 仮定売上金額 = アンケート設問1の入札価格 × 製品重量

図6のグラフを見ると、1回目は220経、200経、240経、260経の順で、最下位の260経は約27,000円で、1位の約4割でした。2回目については、220経、240経、200経の3種はほぼ同額、最下位の260経が約10,000円で上位3種の3割を下回る結果になりました。

今回の調査の総合評価については、2回とも260経が他に比べ低い評価となりました。

徳島県では、この調査結果をパッチ網業者の方に情報提供し、漁獲に適した網目選択の判断材料の一つとして利用していただきたいと考えています。

また、網目拡大だけでなく操業時間の見直しや衛生面、鮮度向上による品質向上など、資源の有効活用にはいろいろな角度から検討が必要です。今後も業界全体で検討を続けて、よりいっそう量と質のバランスの取れた操業を行っていただきたいと思います。